



横須賀商工会議所
6次産業化を応援!

「産農人」とは農作物をつくるだけでなく、市場ニーズを理解し流通させることのできるマーケットセンスを持った新しい農業人を表す造語。横須賀商工会議所と地域の農家・加工業者・飲食店・メーカーが一丸となって、将来の農業を担う有用な人材の育成に取り組んでいます



農業の未来は明るい!!

新しい就農モデル生み出す「産農人」

6期生 新加入

「産農人」は商業振興の最重要分野。地域経済をけん引するこれからの成長産業となることを目指している。同商議所の平松廣司会頭は、新メンバーを前にした入講式で熱く語った。そのための人材育成に力を注いでおり、「6次産業化」など攻めの農業の担い手として「産農人」を位置付けている。

農作物の栽培技術の習得は前提条件。消費者のニーズに沿って商品やサービスを生み出す発想を身に付けて、実際にそれをカタチにしていけるためのスキルを身に付けることがこのプロジェクトの眼目。意欲と創意工夫で農業を進化させ、「稼げる農家」になってもらう考えた。産業として成立させることができた。

「つくる」「売る」を進化させる

三浦半島地域からの流出を防ぐことにつながり、移住・定住を呼び込む可能性も広がる。平松会頭が打ち出す「農業の進化」は、収縮する地域経済を好転させるための重要戦略なのだ。歴代の産農人メンバーはこの思いに込め、現場で活躍し始めている。実際に農業に従事した人、加工品の製造開発に携わる人、進学してこの分野をさらに深めようとする人など様々。農業を自分の仕事にして未来を切り拓こうとしている。



高橋 竜矢さん(2年)
農家で実践的な学習を魅力に感じて参加した。収穫した農作物を使った加工食品の製造が楽しみ。将来は農家研修を経て独立したい。

白濱 龍さん(2年)
6次産業化を発展させるのは自分たちの世代だと思う。実際の農業やキッチン業務など、学校では得られない経験を大切に学びを深めていきたい。

佐藤 悠貴さん(2年)
自分で作り、加工や販売まで行う一連の流れに興味があり経営のノウハウも知りたい。食品ロスに問題意識を持ち、廃棄される食材を再利用する職業に就いてみたい。

小田桐 大樹さん(2年)
どの仕事にも共通する「目標に対する解決策を考え実行する力」を身に着けたい。食品製造に関心があり、その仕組みや6次産業化の手段や課題について考える。

翁川 ひなさん(2年)
食品の流通や農業のマーケティングに興味があり、コミュニケーション力など社会に出て広く使える知識をつけて経験を積みみたい。夢はVtuberのマネージャー。

藤井 悠歩さん(2年)
まだまだわからないことも多いが、いろいろなものを作ってみたい。食品ロスを減らすため、産農人での学びから得られるものを大事にしていく。

竹内 愛梨さん(2年)
作物を育てるだけでなく、それらがどのように流通して使われているかを知りたい。起業に関心があり、その土台として今回の経験を生かしていく。

経営感覚を身に付けた若い農業人材を育成する横須賀商工会議所の「産農人育成プロジェクト」は、6期生を迎えて2023年度の活動をスタートさせた。三浦半島高等学校都市農業科の生徒2年生7人が新加入。生産・加工・販売の各分野のプロが指導する実践型の研修プログラムを通じて学びを深める。神奈川県もこの取り組みを高く評価しており、有為な人材の流入による三浦半島の地域活性化に大きな期待を寄せている。

横須賀商工会議所

産農人

育成プロジェクト

入講式



入講式スタート



新入生代表の言葉



講師陣紹介



入講証の授与



6期生7人



関係者全員で記念撮影

実習スタート! 収穫とトマトの誘引



今年もスタート!



トマトの誘引



いっぱい収穫